

中齋塾 東京フォーラム
平成 26 年度 第 5 回講話

平成 26 年 5 月 10 日
於 湯島聖堂

良い季節になってきました。基本哲学の知足から入りましょう。

比田井副理事長から日本とモンゴルの文化交流をしましょうという話が出ています。基本哲学の知足。論語・陽明学の講演、教育指導の人的交流促進システムを構築することを希望し招聘するという文章が届いています。新モンゴル高等学校と日本の知足を勉強する会との共同事業がスタートする。だんだん知足という考え方が、少しずつ広がってきているなど感じます。外国に出始めたな、良いことだと思いました。

先ほど後期高齢者という話がありましたが、私はこの後期高齢者という日本語が気に入りません。後期高齢者があるということは、前期高齢者があるわけですね。前期高齢者というのは、いくつからですかね。65 歳から前期高齢者という記憶がありますが、それでいいんですかね。

厚生省・厚生年金基金から連絡がきたのは、確か 60 歳になった時に老齡者という呼び方だったと記憶しています。ああいう日本語は失礼ですね。でも知足は、そのようなことに対していちいち腹を立てることなく、あるがまま淡々と受け入れるという考え方をベースとし、しかもそれに感謝をしようということだから、結構この知足という考え方は大変だなと思います。

あるがまま淡々と

今年は身内を二人亡くしましたので、あるがままを淡々と受け入れるということが、やっと淡々と受け入れるところまではいかないが、あるがまま事実を事実として（認めたくはないけれど）認めざるを得ないという部分に、今きています。

前にも「将らず迎えず応じて蔵せず」を、家でずっと呪文のように唱えていたら気持ちが穏やかになってきたと申し上げました。母親が亡くなった後は、事実を事実通りに受け止めようと思ったのですが、なかなか受け止め難い。

ふっと気がついたら、なんだか執着が無くなっていた。今は執着心があんまり無いです。執着心が無いということは欲望が無い。最近、大学の後輩と話しをしていたら「昔はギラギラした欲望の塊だったような記憶があったけれど、今は無くなっている」と。そうだね、

ギラギラした欲望は無くなってしまって、執着心が無くなってきた。無くなってきたではなく、無くなってしまった。自分の心の中が何か不思議です。

ふっと思い出したのが、母親に誉めて貰いたくて色んなことをしていたなという記憶が甦ってきました。ある程度、年を取り、大人になって、高齢者と言われ前期高齢者になったりしてもですが、母親がいて母親に喜んで貰うということは嬉しかったのでしょう。でもそういう部分が今はスポンと無くなった。何だろう、執着心がそれに連動して消えたという気がしました。だから今、誤解を招くような言葉を言いますと、そんなに食べ物も食べたいと思わないし、お金も今ある分で良いし、そんなにもっと欲しいと思わなくなった。着ているものは前からあまり気にしていませんでしたが、中斎塾フォーラムの中で洋服を誉めてくれると不思議だなという感覚です。

いろいろな執着心が減ったのではなく、ストーンと無くなってしまったという実感です。ただその内いつかは復活するんだろうなと思いつつ今、立っております。

知足も、あるがまます素直に受け止める。「受け入れる」という言葉と「受け止める」ということは、どうも言葉が違うと思っています。今、あるがまます素直に受け止めています。

少し余分な話をしていきますと、いろいろと昔からの知り合いが連絡を寄越してくれて、その中に運転する時には、お氣をつけなさいとありました。私も車を運転していて娘を思い出すと体中が震えて、記憶というか気持ちがそっちにふっといってしまう。今、運転しているから危ないなと思って気持ちを戻そうと思うのですが、戻らない時は仕方がないので車を道端に寄せて、ちょっと時間をおいてから運転をするという癖ができました。その連絡を寄越してくれた人が、運転をしていると異次元に連れていかれるから、行かないように氣をつけてという感じでした。これは体験に根ざしているなと思いました。

やはり友人で奥さんを亡くした人がいて、一緒に酒を飲みに行った時、奥さんは先に帰るからと言って店を出て、暫く経ったら外がザワザワするから何だろうなと思って見に行ったら、奥さんが階段から転げ落ちて首の骨を折ってしまっていた。その友人は家内が亡くなった実感は半年間ぐらい起きなかった。これは嘘だ、その内また元に戻るだろうと思っていたそうです。半年ぐらい経ってから、本当に亡くなったのかなという実感が少し湧いてきたと言います。その友人から、やっと最近になって気持ちの切り替えができて女房の遺品を整理し始める氣になってちょっと整理ができたが、でもまだ、よそゆきの着る物は整理が出来ない、貴方も暫くは心ここにあらずだと思おうという連絡がきました。なるほど、みな本当にそういう気持ちを乗り越えていくんだなと思いました。

この間、荒井先生にお会いしました。先生は26年前に奥様を亡くされています。でも鮮明に今も一緒に居てくれるような氣がしていますと。だだ、やっぱり何か思い出すともう気持ちがぐらぐら揺れるので、良くいえば途中で気持ちを切り替える。意識をそらす。そういう風に気持ちの切り替えが出来るようにはなりました。ただし時はちっとも解決して

くれませんとも、そんなことを仰っていました。

皆それぞれ色々なあるがままの事実を、淡々と受け入れるのではなく、受け止めているのだなという感じがしました。

私と思うのは、そういうものが幾つも幾つも積み重なって、記憶が絞り込まれてくる。こういう記憶を残したいと思うので良いことばかり思い出すから、あまり悪いことを思い出さないなという気がしています。それは良いことだなと思います。

もう一つ最後に、2年前にご主人を亡くした人と、この間会いました。そうしたら凄い年寄りに見えた。やっぱり大黒柱が亡くなると残された人は大変なのだなと思います。もしも自分が急に亡くなっても、後のことを考えて事前に手を打っている人はいいですが、急に逝った時に、収入源が途絶えた家族は大変です。たった2年間で生活の苦労が滲み出るような皺が顔中に出来ていました。

現役でおられる方は、残された人が生活できるように段取りしておくことが義務ではないでしょうか。そんな気がします。知足が少し逸れましたね。でも知足というところから色々あるがままを、あるがまま受け止めると良いです。受け入れるということは、かなり辛いものがあるぞと感じます。

論語の視点

「樊遲 仁を問う。子曰く、人を愛すと。知を問う。子曰く、人を知ると。樊遲未だ達せず。」

石崎評議員は良い読み方をしていました。イメージや世界が少しずつ広がってきたような気がする。あとちょっと身振り手振りを入れるとか目の動きが入ったりすると、どんどん豊かな素読になると思います。

論語寺子屋サミットの案内がきました。全国論語教室交流会とサブタイトルが付いています。論語普及会の伊與田学監は、今の日本の中で論語の解説をする学者として突出している人だと思います。お年は96歳ぐらいでしょうか。同時期ぐらいに勉強した人達はもう皆亡くなっています。だから最後の生き残りの人みたいなそんな感じがしています。

論語寺小屋サミットの交流会に、中斎塾の皆様も一緒にいただけると、色々な人との論語の読み方が勉強になると思います。寺子屋サミットで来られる他の方々も、学者としての読み方や解釈をします。現時点、時事評論を踏まえて素読の解説をするというスタイルは、天下広しといえども定型的に行っているものでは、中斎塾フォーラム以外にはございません。私が知っている限りありません。全国論語教室交流会の主催者側も他には聞いていない。経営者で論語をやっている人はいますが、ただそれで教室の形態をとっている人は、いないということです。

顔淵 12

【二十二】樊遲 仁を問う。子曰く、人を愛すと。知を問う。子曰く、人を知ると。樊遲未だ達せず。子曰く、直きを挙げて諸を枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしむと。樊遲 退きて子夏を見て曰く、郷に吾 夫子に見えて知を問いに、子曰く、直きを挙げて諸を枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしむと。何の謂ぞやと。子夏曰く、富めるかな言や。舜 天下を有ち、衆に選びて皐陶を挙げ、不仁者遠ざかる。湯 天下を有ち、衆に選びて伊尹を挙げ、不仁者遠ざかると。

孔子がこの時 64 歳で、樊遲が 28 歳です。60 代もう高齢者ですね。

樊遲が孔子に質問をしました。「仁とは、どういうものか教えてください」と聞いたところ、「人を愛しなさい」と言った。

人を愛しなさいというのは博愛です。樊遲は素直に博愛だと捉えています。

その上でよく分からないから、知を問いました。そうしたら孔子が「その人がどういう人かを知りなさい」樊遲はよく分からなかったので、孔子が説明をしました。「直きを挙げて諸を枉れるに錯けば」は、正直な人間を組織の上におけば皆、「枉れる者」とは、邪悪な心をもった人間ですかね。「直からしむと」は、正直な人に作り変えることができる。

樊遲は退出したが、子夏を見るとすぐに聞きました。先ほど先生に「知」についてお聞きしたら、「正直な人間を引き立てて、不正直な人間の組織の上におけば、正直にすることができると、どうしてでしょうか」と聞いた。そうすると子夏が「なんと豊饒な心の豊かさを表す言葉だろう。舜帝が天下を治めたとき、皐陶を挙げて用いたら、不仁者は遠ざかった。殷の湯王が天下を治めた時、伊尹を挙げて用いたら、不仁者は遠ざかった」

堯が舜に帝位を譲った、堯・舜の時代です。良い時代に帝位に就いたけれども、その時にどういう人間を総理大臣として登用するか。素晴らしい能力を持っていて清廉潔白、正直、能力があるという皐陶を登用した。だから皆その時代は良い人ばかりになって、悪いことを考えたり実行したりする人がいなくなったという風を書いてある。

殷の湯王は、夏という国の桀王に代わって天子になったけれども、同じく伊尹という素晴らしい人物を登用したので、湯は天下がきちんと治めることができたし、悪いことを考える人間は遠ざかっていった。だから素晴らしい言葉だねと子夏は評論をした。

孔子の塾は、塾生がどこかの国に採用されて内閣総理大臣のポストや大臣などの職について実力を発揮する。そう考えると樊遲はまだ 28 歳だから、これからどこの国に登用されるか分からないので、具体的に自分を磨いてトップになれば国をきちんと治められると子夏が解説をしてくれたと捉えれば良いと思います。

自分がその任に値するだけの人徳、力量を磨いているかどうかを、ここでやっぱり自問

自答する論語の視点から見たいと思います。

国会で自民党と公明党が仲良くしようとしている。今度の国民投票は他の政党も手を挙げていると考えた時、腹の黒い人達、ねずみ色の人達、いろいろな人達が集まり国会の中で討議をしているけれども、その中で一番正しいことを正しいと信じ、正しいことをしている人が総理大臣になるのであれば、異論や異説がある不正直な人達も全員正直者になっていきますというけれども、はたしてそうでしょうかと考えればよいでしょう。

洪沢栄一風に言うと、これは家庭の中を運営するのも、一つの会社を運営するのも、皆この考え方を取り入れるべきであろう。ということは、その問題にぶつかる経営者や指導者であれば、自分は正直かどうか、人を教えるに値するかどうか、胸に手を当ててよくお考えなさい。

正直な人間をトップに置いて、色々なことを考える。特に邪まなことを考える人達の上におけば、みな感化されて良くなる。だから感化するだけの人物であるか、それだけの力量があるかと自分自身を問いなさいと読むと良いでしょう。

紹介書籍

『私の宗教観』木内信胤著 プレジデント社

木内先生の『私の宗教観』を、もう一度見直しをしました。

何度も木内先生のお話をさせていただきますけれども、木内先生の奥様がキリスト教でしたから、先生が亡くなられた時はキリスト教でお葬式を出していました。

以前にもお話ししましたが、90歳を越して「いつ死んでもいいんだよ」という言い方をされていまして、木内先生に「お亡くなりになる心構えはもうお出来になっていますか」みたいなことを聞きましたら、口荒く怒っているわけではなく「なに失礼なことを君は言うんだ。言われなくたって、私は私なりにちゃんと準備は出来ている。そんなことを言われる必要はない」そんな言葉が返ってきました。なおかつ「死ぬのは（生と死は）ほんの一跨ぎだよ。そんなにもう今は怖くはない。怖いのは、気が違うことだ」死ぬということのはちっとも怖くない、怖さは感じていないという言い方をされていまして。

木内先生は病院にかかりませんでしたから、痛風のときベッドの上を1ヶ月ちょっと転げまわって我慢し続けました。薬を飲めば楽になるとは思うのですが、薬は飲まない。先生は90歳過ぎてもお元気でしたから、医者からは90歳過ぎてこれだけ元気な体を検査したいと言ってくるけど全部断っている。そんな先生でした。

ご自宅に法華経の先達家、専門家の方にお出でいただいて法華経を暫く教わったという話を聞きました。自分だけ教わっているのはもったいないから、聞きたい人達も集まって

勉強会をやっていたということでした。やっぱりきっかけはありますが、木内先生は27歳の時に、父親が亡くなりました。それから法華経を学んで学んで学び抜いてきた結果、やっと80歳になったら、この本に書いてありますように「聞かれたら、宗教はどうだと答える。でも90歳過ぎたら、聞かれなくてもちよっとはこうだよと言うようになった」こういう学び方は良いのでしょうか。宗教とどうやって付き合うか、ここに出てきたと感じます。

死というものについて、どうしても今考えざるを得ないものだから、木内先生の『私の宗教観』を御紹介しました。やっぱり何か掘りどころというのは要りますね。

今回の四季だよりで、皆様に俱会一処（くえいっしょ）と書きました。

四季だよりをお出ししたら、久しぶりに「俱会一処」この字を見ましたと、御返事いただいた方が確か80歳過ぎた奈良県の方でした。

俱会一処について申しますと、浄土真宗では亡くなったら、お浄土で、極楽浄土でまた一緒に会いましょう、一緒に仕事をしましょう、一緒に暮らしましょうという意味だそうです。

母親が先日亡くなりましたので、若干でも相続するものがあつた場合ですが、亡くなった人の生まれた時から死ぬ時までの本籍を全て役所に提出しなければいけないと分かりましたので、全て調べました。そうしましたら私の曾祖父の高島皆然が、富山県の高岡市でお寺を拵えていまして、そこに「俱会一処」という石碑が残っていました。その俱会一処は、私の曾祖父が作ったものです。写真に残してあります。

般若心経は、どの宗教でもどの宗派でも般若心経は唱えて良いそうで、それで俱会一処と同じようなものだという感じがしています。

これは知足の考え方と根底において通ずるものがありますので、より掘り下げて納得したら、またお話しします。その納得するまでに、新規講座で掘り下げていくつもりであります。

恒例の質問

・昨日一日嘘をつかなかつた方

ーはい、有難うございます。

嘘は、なかなか難しいですね。

・良い日を昨日に絞り込んで、どうですかね。朝起きてから寝るまでの間で、良い日だったなど実感持っている人

ーはい、有難うございます。

良かったか悪かったかを天秤にかけないで、拡大法と縮小法という考え方をしましょう。

心身統一合気道の中に、拡大法・縮小法があります。拡大法と縮小法は、字のごとしですから、良いことがあったと思ったなら、想念をどんどん拡大していきます。嫌なことがあったなと思ったら、どんどん縮小させていく。心身統一合気道で教わった時は、また違った教わり方をしましたけれども、でも自分なりに皆さん吸収していました。あとは自分なりに使いこなしていければ良いと考えています。

・有難うと言ひ、有難うと言われた方

思い出さなかったら、一日どう過ごしたかを思い出してみてください。そうすると必ずどこかで言われています。でも、この間ずっと考えてみて、今月ですけれども2回「有難う」と言わなかった日がありました。ゴールデンウィーク中に赤城にこもっていた時、誰にも会わなかったときでした。

(3分前の鐘が鳴る) 良い音色ですね。心の邪まなる人は、こういう音色が出ない。ちなみに、ちょっと鳴らしてみます。

ちょっと雑念が入ってしまいましたね。

平静にしよう、心を落ち着けようという時に教わったのですが、心の波をだんだん穏やかに落ち着けようとする。目で見ようという時には、もう平静な状況になっている。小さいところ(ミクロの部分)だとまだ動いていますが、人様から見ると知足の心で話をしているという風に見えてくる。ですから、そういう状態になって鐘を鳴らすと良い音色が出ます。時々、今の心の状況はどうかなと(鐘を鳴らして)やってみると良いでしょう。

・朝起きてから今の時間まで、健康法を実践された方

実践されていない方は、夜寝るまでの間に何かすれば良いでしょう。北関東フォーラムの山崎幹事が、朝8時から山崎流棒術を道場で棒を使って教えて下さっています。棒を持って肩幅に合わせて下に置き、このとき息を吐く。体を曲げないで真っ直ぐ動かす。下にポンと置いてもう一度つかんで息を吸って伸ばして、あと後ろに反らして息を吐きながら下へ下ろす。これを3回やります。ですが棒がなくても、肩幅よりちょっと広めにして、真っ直ぐ体をおろして息を吐き、また持ち上げて息を吸う。そういう動作でも健康法になります。色々なものが健康法に入っている。一度試してください。

・明日のことを過去形でイメージをする

先月、竹岡幹事が良いことを言ったなあと考えたのは「明日のことを過去形でイメージする時に、ワクワクすることを考えます」と。楽しいワクワク。これはイメージしやすいなと思いました。ですから、今晚寝る時に、明日のことをワクワクするようなものが一つイメージできれば、良いなと思っています。

(終了の鐘が鳴る) あ、良い音色。今度は、さっきより良いですよ。前半はここら辺で、

後半に時事評論を申し上げます。

時事評論

今朝がた、東京駅から御茶ノ水駅まで電車で来ました。東京駅で御茶ノ水に行く中央線ホームまで歩いていまして、つくづく「へーえ」と思ったのですが、そう思った内容は、足早に急いで来る人は真正面しか見ていない。人を気にしないで真っ直ぐ猪突猛進で歩いて来る。この人達は前を見ている。しかし前しか見てないね、横や周りを気にしていない。それから、ゆっくり歩く人は前を見ないですね。

暇だったから、何人か追いかけて見ていました。この人はどうやって歩くのだろうかと思っていたら、キョロキョロと目だけ動かしながら歩いている人がいました。でも、人にぶつかります。

真正面で必死になって歩く人達は、人が避けてくれる。だから意外とぶつからないし、跳ね飛ばさない。横に目をそらしながら歩いている人は、真正面から来る人とぶつかってしまう。必死になって前を向いて歩いている人達は、横を見ながらキョロキョロ周りを見ている人達を、跳ね飛ばしています。

これは何か今の人生の縮図だと感じました。目配り気配りをすると良いのですけれども、正面を見て右左が何となく視界に入っているような歩き方の人を見ていますと、それなりのスピードで歩いている。

右を見たり左を見たりしながらの人は、真っ直ぐ歩いているつもりでしょうけれども、だんだん斜めに逸れています。

今朝は暇でね、普段の倍ぐらい時間をかけて観察しながら歩いてきました。危険な歩き方をする人は、男性であろうが女性であろうが変わらないですね。

今回は、そういう感覚で新聞を見ました。

これは昨日の朝日新聞で「ベトナム船 171 回衝突。中国政府反論、南シナ海対立深まる」という見出しですけれども、中国の外務省は記者会見でベトナム船 35 隻が 5 日間で 171 回ぶつかって来たと言っています。ベトナムは中国船が 26 回ぶつかって来たと言う。どちらもぶつかって来たと言っています。今朝のテレビを見ていたら、現時点で中国船が 80 隻出ている、ベトナムは 30 隻出てお互い睨み合いをしている。

だいたい戦争する時は偶発的です。確信犯が後ろにいても、表面は偶発的なもので装います。これで周りを見ていないで、ぶつかってきたということを応酬していたら本当に発砲しかねません。ドンパチが始まります。それで気になるのは、どうしてお互いが「自分からぶつかっていった」とは言わないで「相手がぶつけて来た」と言うのかなと思います。その背景は何なのかということを考えてみると、新聞の読み方が変わってくると思います。

他の新聞はどう書いているのでしょうか。

ちょっとお聞きしますけれども、比較的朝日新聞を見ているという方、どれくらいおられますか？

ーはい、有難うございます。

木内顧問が産経を推していますので、比較的産経新聞を見る方？

ーはい、有難うございます。

あと日経新聞を読む方が何で多いのでしょうかね。広告が凄く増えたことがありましたでしょう。今、手元に日経新聞がありますが、紙面を見ますと広告と記事、めくってもめくってもまた広告と記事です。記事を見ていると下が広告です。

新聞の広告料はどれくらいでしょうかね。昔はかなり取っていたでしょう。4~500万と言っていたのが、今では2~300万ぐらいに落としてきて、内容によっては100万ぐらいまで落としているでしょう。今だって一面の広告が多すぎです。

相手によって値下げをするということは、新聞社がどこと繋がっているかという読み方が、必要になると思います。

その新聞社がどこと繋がっているか、それから経営思想はどういう思想の持ち主なのか、どういう主張をしているのか。それから報道の姿勢はどうなっているのか、記者クラブの活用の仕方はどうなのかを考えてみると良いと思います。

日本の新聞は記者クラブ垂れ流しだと感じます。だから自己主張ということは非常に少ないなと思うのですが、その中で各社の書き方があります。図々しいなと思うのは、日経新聞でして、日経新聞は1つのネタを色々なものに、いっぱい使っている。あれはまあ図々しいなと思いますね。

新聞社を批判しても仕方がないのですが、でもその新聞が書いているものは、客観的な事実を事実として載せるのか。それから主義・主張を入れているのか。読者が知らないままに世論を誘導しようとしているのか。時々見直しをしてみる必要があると思います。また経営者が変わると途中でスタイルが変わりますから、よく見ると良いです。

ということで、ベトナム船の書き方も、ベトナムに肩入れをしているのか、中国に肩入れをしているのか、日本の視点は入っているかなどを見方をされると良いと思います。

そうするとここから出てくるものは、中国は今どういうことを考えているか、中国が気にしているのはどこか。

あとはロシアを気にしますと、アメリカが目に入ります。アメリカを気にして見ていると、この頃のアメリカは弱くなってきたと見えるから、アメリカが弱くなっている間に領土を拡張しようと、ロシアと中国が水面下で連携を取り合いながらお互い領土拡張をしてえいるという動きになるのではと感じます。

ロシアを見ていると「住民投票決行の構え プーチン氏の延期要請をウクライナは拒否をした」と書いてあります。だいたいの流れ方から見ると、中国とロシアそれからアジア一体みんな繋がった話ですので、そういう見方をすると良いでしょう。

それから小さい部分で、これも昨日の新聞です。

法人税を5年間で20%まで引き下げる。これは国内より国外に向けて言っているような感覚です。

それから消滅する自治体。群馬県の南牧村が減少率全国1位と出ています。これも凄いですね。減少率89.9%だそうです。若い女性が2010年の時に99人だったのが、40年には10人に減る。全国ワーストワン。前は限界集落という言い方をしていましたが、最近は消滅集落といいます。無くなってしまふ。今、その消滅集落と名指しされている市町村はどれくらいですかね。

出生率が下がっていますでしょう。地方は人が減って都会は増えている。都会は増えるけれども、産み育てる環境がないから産まない。どんどん減ってくる。

今日の新聞を大まかに見ましても、プーチンさんがクリミアに行っとか、韓国経済は大型客船の事故があったので自粛ムードであり、人手不足が酷いとかありますが、人手不足はこれからのキーワードですね。

やっぱり前に申し上げて気になっているのが、国民投票法です。18歳以上の者に対して国民投票を4年後に実施する可能性がある。これもずっと見ていけば徴兵制の復活ということでしょう。

アベノミクスは経済で進んでいますが、国債1000兆円を越したといいます。しかしその中身は倍ぐらいあるはずですよ。それらを返さないで踏み倒そうということで、もう本当に進んでいます。言いかたを良くすれば徳政令を復活させる。

徳政令の復活とは、木内信胤先生を研究していますと、渋沢栄一の孫が大蔵大臣のときに、木内先生が富裕税を推進したという事実があります。そこら辺で少し見えてきます。

アベノミクスが金を少し潤沢にしたいということは、いわゆる戦費の調達。戦争するときのお金を少し作りましょう、兵隊さんを作りましょうということがゴールで見えてきます。そういう気がしてなりません。あとは、そういう仕組みを作っておこう。

そういう視点で新聞を見ていくと、あちらこちらに税金が上がる話を書いてあります。この税金は、一体どこに使うつもりかと疑問に思います。税金の追っかけをずっとしなきゃいけないなということを考え感じています。

ちょうど良いお時間になりました。有難うございました。